

(地方公共団体名)の概要・特徴等

- ・藩政期は加賀百万石の城下町として発展し、「加賀は天下の書府なり」とも言われた金沢は、市政施行後も戦災を受けず発展を続けてきた都市である。平成8年に中核市となり、歴史や伝統を大切にしつつも革新の営みを続け、「歴史都市」「創造都市」の認定を経て、「世界の交流拠点都市金沢」として、国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けるまちづくりを推進している。
- ・平成18年4月に中核市初となる児童相談所を設置したほか、令和2年9月に策定したSDGs未来都市計画に、「子供がゆめを描けるまち」を掲げ、すべての子供が安心して個性豊かに育つことができる環境づくりを推進している。

解決したい地域課題

●企業がソリューションを提案しやすいよう、出来るだけ具体的に(数値等を用いるなど)記載してください。

●課題は複数でも可です。

【医療的ケア児等の支援強化】

以下の視点から、医療的ケア児等に関する情報の収集・管理・活用と支援者間の連携を強化し、ニーズに対応した支援策を立案・実施することが求められる。

- ・国調査では、医学の進歩を背景として、人工呼吸器や経管栄養など日常的な医療的ケアを必要とする障害のある児童が増加している。
- ・地方自治体では医療的ケア児等の情報や支援ニーズ等を把握するツールが少ない。
- ・医療的ケア児等の中には、保育所等の幼児教育が受けられない児童がいることが想定され、在宅で常時見守る家族の負担も大きいことから、在宅支援の充実が求められる。
- ・呼吸器機能障害の観点から、コロナ禍における感染防止対策の強化が必要となる。
- ・効果的な支援体制を構築するためには、行政、医療、障害福祉サービス・訪問看護事業者等の支援者間の情報共有と連携強化が必要となる。
(想定される支援者) ・医療機関(主治医) ・訪問看護事業者 ・障害福祉サービス事業者
・行政機関 ・保育所 ・教育機関 ・民生委員 ・自主防災組織 など

【ICT、IoTの活用イメージ】

- ・医療的ケア児等と支援者間の双方向発信ポータルサイトの構築による日常生活や幼児教育等の支援に関するマッチングを推進(AIを活用したマッチングの自動化)
- ・親なき後や急病・災害等の緊急時に支援を必要とする医療的ケア児等の潜在的なニーズの可視化と支援者間の情報共有を図るクラウドシステムを整備し、地域での見守りと緊急時の支援体制を構築(緊急時受入施設や人工呼吸器等非常用電源装置の確保など)
- ・医療的ケア児等が携帯するHELPカードをデジタル化し、どの場所でも支援者に必要な情報を伝達(主治医・疾病等の医療情報、緊急時の対処方法、緊急連絡先など)

ソリューション提案に対するアピールポイント

●団体のICT等への取組状況やソリューション提案への協力体制など、企業へのアピールポイントを記載してください。

【ノーマライゼーションプラン金沢2021(次期障害者計画)に基づく提案】

- ・本年度策定するノーマライゼーションプラン金沢2021 骨子素案では、施策の体系に「豊かに育つ」を新設し、医療的ケア児等への支援を掲げているほか、ICT技術の利活用とスマートインクルージョンの視点を各種施策に反映することとしている。
- ・本提案は、ノーマライゼーションプラン金沢2021の具現化を図るうえで、重要な取り組みとなる。

【協力体制等】

- ・障害者自立支援協議会に児童専門部会を設置(H29)
(医療、障害福祉、保育、教育関係者で構成、医療的ケア児等の支援策を検討)
- ・障害児通所支援事業所連絡会を設置(R1)
(市内約50の障害児通所支援事業所の従事者で構成、情報共有と困難事例の対応協議)
- ・地域生活支援拠点推進事業を開始(R2.10)
(市内70を超える事業所が拠点登録、24時間365日対応の緊急時の受け入れ等を実施)
- ・石川県肢体不自由児協会と連携し、HELPカードの交付を開始(H22)
- ・病院や医師数、薬局、病床数は、全国平均を上回り、地域医療資源が豊富